

2025(令和7)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【選択科目：倫 理】

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5 ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2025(令和7)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【倫 理】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

14世紀から15世紀、イタリアを中心にルネサンスと呼ばれる文芸復興運動が興った。この運動は16世紀にはイタリアから北ヨーロッパに拡大し、絵画・彫刻・建築や哲学・自然科学などすべての分野に広がっていった。

a ピコ＝デラ＝ミランドラは、人間は自由意志によって自己自身を形成していく自由で独立した存在として神に創造されていると説いた。

b レオナルド＝ダ＝ヴィンチは芸術、科学、技術を一体のものとみなして、天文学、物理学、機械学、解剖学などあらゆる学問分野において優れた業績を残し、絵画や彫刻など芸術における表現に役立てた。その多岐にわたる活動と天才は、ルネサンスが理想とした A と呼ばれるにふさわしいものであった。

(①) は、古典と聖書の文献学的研究を通じて、教会の解釈によってゆがめられていない福音書の復興を目指すとともに『愚神礼賛』を著して教会の形式化、僧侶の腐敗を鋭く風刺した。また、(①) と交流のあった トマス＝モアは、現実の社会の在り方を批判し、私有財産制のない理想郷を描いた。

(②) は、『君主論』において、人間の本性は打算的利己的なものであるという現実認識のもとで政治を考察し、君主は国家の維持・発展のためには、あえて非道徳的手段もとることができなければならないと説いた。これは政治を宗教や道徳から分離してとらえるものであり、近代政治学の基礎となっている。

ルネサンスとほぼ時を同じくして、宗教改革がはじまった。ドイツの神学者 d ルターは、贖宥状を乱売するなど腐敗したローマ・カトリック教会を批判し、地元の教会の扉に「 B 」という質問状を掲示して、宗教改革運動の口火を切った。ルターは (③) の「ローマ人への手紙」に基づき、イ 神の愛である贖罪は、信仰によってのみ可能であると説くとともに、キリストの福音を伝えている『聖書』のみを信仰のよりどころにするという C の立場に立ち、聖職者の権威を否定した。さらにルターは、教会に必要な職務（牧師など）と同じく、ロ 世俗の職業も神が授ける神聖な使命であり、職業に貴賤はないと説いた。これは近代の職業観の原型となった。

問1 文章中の **A** ～ **C** に当てはまる最も適切な語句をそれぞれ記入しなさい。
(各2点)

問2 下線部 a のピコ＝デラ＝ミランドラの著作として正しいものを次の(ア)～(オ)の中から一つ
選び記号で答えなさい。(1点)

- (ア) 『方法序説』
- (イ) 『パンセ』
- (ウ) 『人間知性論』
- (エ) 『人間の尊厳について』
- (オ) 『エッセー』

問3 下線部 b のレオナルド＝ダ＝ヴィンチの作品として正しいものを次の(ア)～(オ)の中から
一つ選び記号で答えなさい。(1点)

- (ア) 「最後の審判」
- (イ) 「最後の晩餐」
- (ウ) 「ダビデ」
- (エ) 「アテネの学堂」
- (オ) 「ヴィーナスの誕生」

問4 文章中の (①) ～ (③) に当てはまる最も適切な人名をそれぞれ記入しなさい。
(各2点)

問5 下線部 c のトマス＝モアの著作として正しいものを次の(ア)～(オ)の中から一つ選び記号で
答えなさい。(1点)

- (ア) 『ドン＝キホーテ』
- (イ) 『ガルガンチュア物語』
- (ウ) 『神曲』
- (エ) 『ユートピア』
- (オ) 『デカメロン』

問6 下線部イの考え方を何というか。最も適切な語句を記入しなさい。(3点)

問7 下線部ロの考え方を何というか。最も適切な語句を記入しなさい。(3点)

問8 下線部 d のルターに影響を受けつつ、スイスの宗教改革に携わったカルヴァンが唱えた
「予定説」の内容を60字以内で説明しなさい。(6点)

Ⅱ. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(①) が (②) と出会ったのは、1924 年に、(①) がマールブルク大学に入学して、(②) の講義に出たときのことだった。(①) はまだ 18 歳のユダヤ系ドイツ人学生で、(②) は 30 代半ばで妻子もいたが、2 人は愛人関係となった。1926 年、(①) は (②) の紹介でハイデルベルク大学へ移り、a ヤスパーズの下で、哲学の博士論文のための研究をはじめたが、2 人の関係はまだ続いていた。1927 年、(②) は主著となる『存在と時間』を発表すると、翌年には、師である b フッサールの後任として、フライブルク大学の教授となる。その移籍の直前、(②) はハイデルベルクに赴き、(①) に別れを告げている。

『存在と時間』は、ドイツ思想界に大きな衝撃を与えた。(②) によれば、人間は自ら存在をはじめめることはできず、すでに存在の中にいる自分を発見する。すなわち、自己自身がそのように存在しようと企てたのではなく、c すでにそのようなものとして存在させられてしまっているのである。人間は、他の動物とは違い、存在に関心を抱き、存在とは何かを問う d 存在の問いをつねに抱くような、際立ったあり方をしている。しかし、日常生活においては、人間は、他人と同じような話題に関心をもち、誰かと同じようなふるまいをしながら、e 実は誰でもないような匿名的な人間のあり方をしてしまうことがある。(②) によれば、これは本来的な人間のあり方ではない。本来的な人間のあり方へと引き戻すきっかけとなるのが、自分の死を意識することである。自分が将来死ぬということと向き合い、運命的覚悟として引き受けるとき、一回限りの、かけがえのない人生を真剣に生きようと決意し、本来の自己にめざめて存在することができる^{と説いた}。

1933 年、(②) はフライブルク大学の総長になると、就任演説でナチスへの賛辞を表明し、自身もナチス党に入党した。ユダヤ人であった (①) はフランスに亡命し、1940 年にフランスがドイツに降伏すると、アメリカへと亡命した。第 2 次世界大戦が終結すると、(②) はナチスへ協力したために、大学教職無期限停止令が出され、5 年後、ようやく禁止令が解除され、大学に復職した。(①) はアメリカの様々な大学で教鞭をとり f 『人間の条件』など、数多くの重要な著作を発表した。

問 1 上の文章中の (①) および (②) に当てはまる人物名を記入し答えなさい。

(各 2 点)

問 2 下線部 a のヤスパーズによれば、人間が、挫折せざるを得ない人生の壁に直面することは、世界を超越することができるきっかけとなる。すなわち、死、苦悩、争い、罪など、制御することも避けることもできない壁にぶつかるという体験が、この世界を超えたものへと眼差しを向けるきっかけとなると説いた。この人生の壁のことをヤスパーズは何と名づけたか。漢字四文字で答えなさい。(3 点)

- 問3 下線部bのフッサールがとなえた哲学で、純粹な意識の内面に立ち返り、そこに現れる意識をありのままに解明する哲学を何と言うか、答えなさい。(2点)
- 問4 下線部cのことを、(②)は何と名づけたか、答えなさい。(3点)
- 問5 下線部dから、(②)は、人間のことを何と呼んだか、答えなさい。(3点)
- 問6 下線部eのようなあり方を、(②)は何と呼んだか、答えなさい。(3点)
- 問7 (①)は、1951年に、ナチスドイツやスターリンによってもたらされた政治体制が、どのようにして生まれたのかを探求した著書を出版しベストセラーとなった。その政治体制を(①)は何と呼んだか、漢字四文字で答えなさい。(3点)
- 問8 下線部fにおいて、(①)は、人間の行為を、「労働」「仕事」「活動」に分けて分析している。それぞれどのような行為か、説明しなさい。(6点)

Ⅲ. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

明治前半の自由（ ① ）運動は、西欧流の政治的・社会的な権利の思想を普及させた。他方で、明治の中頃から大正にかけて、文学者たちの間から、封建的道德に縛られた伝統的な日本社会と葛藤しながら近代的な自我を個人の内面において確立しようと模索する思想が生まれ始めた。

（ ② ）主義の中心的な人物であった北村透谷は、当初は自由（ ① ）運動に関わっていたが、運動の激化の中で深い挫折感を味わった結果、政治を離れ文芸評論において近代的自我の目覚めを促した。透谷は、現実の世界ではなく心の中の内面的世界に自由と幸福を求める（ ③ ）論を唱えるとともに、（ A ）信仰は個人の支えとなり、（ B ）は他者との間にお互いに自立した関係を築くことで精神を純化すると主張した。透谷と同じく（ ② ）主義の歌人の^a与謝野晶子は、青春の（ B ）感情を大胆に歌うことで、封建的道德に抗して個としての女性の解放を目指した。

近代日本の代表的作家である夏目漱石は、1911年(明治44年)に行った講演『現代日本の開花』で、西洋の文明開化が自然に生じた（ ④ ）的なものであるのに対して、明治維新後に進められた日本の文明開化は、西洋諸外国からの圧力の結果生じた、表面的で（ ⑤ ）的なものであると批判した。また、数年後の講演では、日本の西欧化が進む中でも根強く残る（ ⑥ ）の生き方を否定し、自らの内面的な要求に従う主体的な生き方として^b自己本位の立場を力説した。晩年の小説である『こゝろ』や『明暗』では、現実の人間関係においては避けられない（ ⑦ ）ゆえの葛藤や苦悩を描くことを通じて、倫理的・理想的な（ ⑧ ）主義を模索した。しかし、そうした模索の末に漱石は、^c自然の流れに身を任せることによりすべてを受け入れる東洋的な無我の境地を唱えるに至った。漱石と同じくこの時期の代表的な作家である森鷗外は、社会の中で課せられた地位や役割との葛藤を描くことで個としての人間の生きる意味を捉えようとした。そうした人間描写において鷗外のとった態度は、漱石の最晩年の境地とも通じる（ C ）であった。

問1 （ ① ）～（ ⑧ ）に入る最も適切な語句を、以下の語群から選び記号で答えなさい。
(各1点)

- | | | | | |
|-----------|----------|----------|--------|----------|
| (ア) エゴイズム | (イ) 個人 | (ウ) 人倫 | (エ) 自然 | (オ) 内部生命 |
| (カ) 人格 | (キ) 人権 | (ク) 民権 | (ケ) 主権 | (コ) 独立自尊 |
| (サ) ロマン | (シ) 他人本位 | (ス) 他力本願 | (セ) 内発 | (ソ) 外発 |

問2 (A) に入る宗教の名前を書きなさい。(2点)

問3 (B) (C) に入る語をそれぞれ漢字二文字で記入しなさい。(各2点)

問4 下線部 a の与謝野晶子と母性の保護をめぐって論争を展開し、女性文芸集団である青鞥社を結成した女性解放運動家は誰か。六文字で答えなさい。(4点)

問5 下線部 b の自己本位について、漱石はどのように考えていたか。60字以内で説明しなさい。(6点)

問6 下線部 c を漱石は何と呼んだか。漢字四文字で答えなさい。(3点)

Ⅳ. 次の文章は、ニュースでもよく取り上げられる用語を説明しています。それぞれ何の用語を説明しているのか答えなさい。(各2点)

- 1, 一人の女性が一生に産む子どもの数。ある年次における15～49歳の女性が子どもを産む率を年齢別に算出し、それを合計したもの。この数値の減少は、人口減少や高齢化社会を示す指標の一つとされている
- 2, 機能障害や機能不全に陥った生体組織・臓器に対して、細胞や人工的な材料を積極的に利用して、損なわれた機能を改善、回復させる医療。これまで治療法がなかったケガや病気に対して、新しい医療をもたらす可能性がある。また、この技術を用いて、難病の原因解明や薬の開発も進められている
- 3, 一定の地域に住む生物群と、それをとりまく大気・水・土壌などの無機的な環境とが作り出している関係の総体的なシステム
- 4, 組織や集団において、人種や性別、宗教、価値観などが異なるさまざまな属性の人材を迎え入れ、共存しながら、それぞれが持つ能力や考えを活かす取り組み
- 5, メディアが流すニュースや、SNSで発信される情報のうち、真実ではない情報が掲載された記事であり、意図的または非意図的にニュースとして拡散され、社会に負の影響をもたらすもの
- 6, 日本においては、15歳から34歳までの仕事をしていない人で、就学もしておらず、家事や就職活動や職業訓練もしていない人を指す言葉
- 7, 婚姻関係の夫婦は同じ姓を名乗るという現在の制度に加えて、夫婦が望む場合には、結婚後にそれぞれの結婚前の姓を名乗ることを認めるという制度

Ⅴ. アメリカの心理学者E.H. エリクソンは、人は健全で幸福な発達をとげるために各発達段階で達成しておかなければならない心理的な課題があるとし、それを発達課題と呼んだ。その発達課題のうち、青年期の発達課題について60字以内で説明しなさい。(5点)

